



Hewlett Packard
Enterprise

Red Hat Enterprise Linux 7.9

Supplement for Service Pack for ProLiant 2020.09.0 Gen10

リリースノート

2020 年 12 月

法律および通知情報

© Copyright 2020 Hewlett Packard Enterprise Development LP

ドキュメント履歴:

リリース日	説明
2020年11月	最終版
2020年12月	SPPバージョンが2020.03.0から2020.03.2および2019.12.0から2019.12.2にアップデートされ、サポートされているバージョンのSPPテーブルのBootHole脆弱性の問題の修正に対処するためにリリースされました。

目次

概要.....	4
アップデートの推奨事項	4
整合性.....	4
変更の概要.....	4
重要な注意	4
リリースの概要	5
前提条件	5
Linux 上での SUM の実行.....	5
展開の手順.....	6
コンポーネントリリースノート.....	7

概要

Service Pack for ProLiant (SPP) サプリメントは、展開ツールとして Smart Update Manager (SUM) を含むソフトウェアおよび/またはファームウェアコンポーネントを含めたバンドルです。SPP のコンポーネントと連動していない新しいオペレーティングシステムのアップデートまたは SPP に含まれていない機能をサポートすることが可能です。サプリメントに含まれるソフトウェアおよびファームウェアは、通常の SPP のリリースサイクル外で必要とされる機能のサポートを提供します。サプリメントは、必要なときに HPE がドライバーのサポートを提供することができるため、カスタマーは完全な SPP が利用可能になるのを待つ必要がなくなります。

各 SPP サプリメントのバージョン番号は、対応する SPP のバージョンと一致しています。サプリメントのリリースノートが提供され、バンドル内のコンポーネントに関する情報が記載されます。サプリメントのコンテンツが Linux コンポーネントを含む場合、コンポーネントは Linux Software Delivery Repository (SDR) でも利用可能です。いったんリリースされたら、SPP サプリメントのコンテンツの機能が次の利用可能な SPP に含まれます。

2020.03.0 以降、追加の Gen10 製品の SPP リリースがあります。

SPP に関連付けられたホットフィックスは、SPP サプリメントでも動作します。ホットフィックスが、サプリメントでサポートされているオペレーティングシステムをサポートしているかどうかを確認してください。SPP ホットフィックスの詳細については、[SPP Information Library ページ](#)にある SPP のリリースノートを参照してください。

これは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.9 Supplement for Service Pack for ProLiant 2020.09.0 です。

RHEL 7.9 でサポートされるサーバーについて詳しくは、<http://www.hpe.com/servers/ossupport> を参照してください。

製品名	コメント
RHEL 7.9 Supplement for Gen10 Service Pack for ProLiant Gen10 専用バージョン 2020.09.0	ソフトウェアコンポーネントを含むバンドル ファイル名: gen10supsp-2020.09.rhel7.9.en.tar.gz

アップデートの推奨事項

オプション - ご使用のシステムが記載された修正に影響する場合、またはこのバージョンで提供される拡張機能を使用する場合、このバージョンにアップデートする必要があります。

整合性

Gen10 Service Pack for ProLiant 2020.09.0

変更の概要

重要な注意

この文章全体で使用されているサブプリメント、Service Pack for ProLiant または SPP の用語は、明示的に述べない限り、概要セクションの表の配布物のすべてを示しています。

⚠ 任意のコンポーネントをシステムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にシステムの最新のバックアップが利用できることを確認してください。

リリースの概要

この Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.9 Supplement for Service Pack for ProLiant のリリースの概要は以下のとおりです。

Red Hat Enterprise Linux 7.9 のサポートを追加しました。

この March に付属するドライバーか、RHEL7.9 ディストリビューションで提供されるドライバーのいずれかを使用できます。ただし、ディストリビューションの最初のリリースに付属するドライバーには、このサブプリメントで利用できる HPE の追加機能の一部が含まれていないことがあります。これらの機能は将来の SPP リリースで追加されます。

このサブプリメントは、Gen10only SPP 2020.09.0 に対応しています。

この Service Pack for ProLiant (SPP) で提供されるすべてのコンポーネントは、一緒にテストされ、Service Pack for ProLiant 内の他のコンポーネントの依存関係を満たしています。

以下の製品に同梱されているソフトウェアとファームウェアコンポーネントを使用しているシステムは、簡単にこのサブプリメントのコンポーネントに移行することができますようになります。

製品	Gen10 専用バージョン
Service Pack for ProLiant	2020.09.0
	2020.03.2
	2019.12.2

前提条件

Linux 上での SUM の実行

⚠ インストール処理に失敗したときのために、ターゲットシステムにソフトウェアアップデートをインストールする前に、ターゲットシステムの最新のバックアップがとられていることを確認してください。

Linux オペレーティングシステムのリモートターゲットシステムで SUM を正常に展開するには、以下が利用可能であることが必要です。

- libcrypt.so

- libcrypt.so.1
- /usr/lib/libqldsdm.so
- /usr/lib64/libqldsdm-x86_64.so
- /lib/cim/libqldsdm.so
- /usr/lib/libemsdm.so
- /usr/lib64/libemsdm.so
- /lib/cim/libemsdm.so
- /usr/lib/bfahbaapi.so
- /usr/lib64/bfahbaapi.so
- /lib/cim/bfahbaapi.so
- linux-vdso.so.1
- /lib64/libcrypt.so.1
- /lib64/libpthread.so.0
- /lib64/libz.so.1
- /lib64/libdl.so.2
- /lib64/librt.so.1
- /usr/lib64/libstdc++.so.6
- /lib64/libm.so.6
- /lib64/libgcc_s.so.1
- /lib64/libc.so.6
- /lib64/ld-linux-x86-64.so.2

展開の手順

このサブプリメントは、オペレーティングシステムのインストール後に使用するよう設計されています。これにより、ドライバーのアップデートと、HPE ユーティリティ(ヘルスや iLO ドライバーなど)およびエージェント(サーバー、NIC、およびストレージ)のインストールが可能になります。

サポートされている Linux オペレーティングシステム上で SPP サブプリメントおよびそれに対応する SPP を使用することにより、標準の Linux インストールツール(YUM/Zypper)または HPE 管理ツール(SUM/OneView)のいずれかを選択して以下のことを実行できます。

- サブプリメントおよび SPP で提供されているソフトウェアおよびファームウェアを使用します。
- SPP で提供されているファームウェアを使用し、Software Delivery Repository <https://downloads.linux.hpe.com/SDR> からソフトウェアを入手します。
- SPP で提供されるファームウェアおよびソフトウェアユーティリティと、オペレーティングシステムのディストリビューションから入手可能なドライバーを使用します。

コンポーネントは所定の展開に応じて、SUM カスタムベースラインを使用して単一の ISO に組み合わせたり、別のパッケージとして適用したりできます。

注記: Gen10 iLO 5 Linux および iLO 5 ノードのみ-iLO リポジトリを管理するには、[iLO リポジトリ オプション]タブを選択します。(SUM を GUI モードで実行する場合)。

選択したコンポーネントを iLO レポジトリにアップロードし、インストールセットを作成するには、コンポーネントをインストールセットとして iLO レポジトリに保存を選択します。SUM によって自動的に名前と説明が作成されますが、インストールセットの名前と説明を編集することができます。このイ

インストールセットを使用して、今後、サーバーコンポーネントをロールバックできます。名前と説明は 63 文字に制限されており、使用できる特殊文字は-と_だけです。

コンポーネントリリースノート

リリースノート for RHEL 7.9 Supplement for Gen10 Service Pack for ProLiant, v2020.09.0

[ドライバー - ストレージコントローラー](#)

[ソフトウェア - Lights-Out マネジメント](#)

[ソフトウェア - ストレージ ファイバーチャネル HBA](#)

[ソフトウェア - システムマネジメント](#)

ドライバー - ストレージコントローラー

先頭

Red Hat Enterprise Linux 7 (64-bit) 用 HPE ProLiant Gen10 および Gen10Plus Smart アレイコントローラー (64-bit) ドライバー

バージョン: 1.2.16-040 (**推奨**)

ファイル名: kmod-smartpqi-1.2.16-040.rhel7u8.x86_64.compsig; kmod-smartpqi-1.2.16-040.rhel7u8.x86_64.rpm; kmod-smartpqi-1.2.16-040.rhel7u9.x86_64.compsig; kmod-smartpqi-1.2.16-040.rhel7u9.x86_64.rpm

改善点

Red Hat Linux Enterprise 7 Update 9 のサポートを追加

サポートされるデバイスおよび機能

サポートされるカーネル:

このバイナリ rpm でサポートされる Red Hat Enterprise Linux 7 (64-bit) カーネルは、次の通りです。

3.10.0-957.el7- Red Hat Enterprise Linux 7 Update 6 (64-bit) および将来の update6 の errata カーネル

ソフトウェア - Lights-Out マネジメント

先頭

HPE Lights-Out オンライン設定ユーティリティ for Linux (AMD64/EM64T)

バージョン: 5.6.0-0 (**オプション**)

ファイル名: hponcfg-5.6.0-0.x86_64.compsig; hponcfg-5.6.0-0.x86_64.rpm

前提条件

このユーティリティは、以下の最小ファームウェアリビジョンを必要とします。

- Integrated Lights-Out 3 ファームウェアバージョン 1.00 以降
- Integrated Lights-Out 4 ファームウェアバージョン 1.00 以降
- Integrated Lights-Out 5 ファームウェアバージョン 1.20 以降

マネジメントインターフェイスドライバーおよびマネジメントエージェントはサーバーに必ずインストールされていなければなりません。

iLO 5 の場合は、上記のパッケージに加え、openssl v1.0.x 以降が必要です。

openssl を手動でコンパイルおよびインストールしたり、意図的に /usr/bin/openssl を再配置している場合は、PATH 環境変数を設定し、正しい意図した openssl に HPONCFG をダイレクトする必要があります。

修正

複数の 64 ビット openssl がインストールされている場合、HPONCFG が openssl ライブラリを検出できないという問題を修正しました。

改善点

製品名を HPE Lights-Out オンライン構成ユーティリティ for Linux (AMD64/EM64T) にアップデートしました。

ソフトウェア - ストレージファイバーチャネル HBA

先頭

Fibreutils for HPE Storage ファイバーチャネルホストバスアダプター for Linux - Red Hat Enterprise Linux (RHEL)

バージョン: 4.1-1 (c) (オプション)

ファイル名: fibreutils-4.1-1_rhel.x86_64.compsig; fibreutils-4.1-1_rhel.x86_64.rpm

前提条件

- 以下のパッケージをインストールする必要があります: glibc libgcc libstdc++ bash perl

改善点

このパッケージでは、Red Hat Enterprise Linux(RHEL)ディストリビューションのみがサポートされています

サポートされるデバイスおよび機能

サポート対象:

- HPE 81E 8Gb シングルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE 82E 8Gb デュアルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE 84E 8Gb クアッドポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE LPe1205A 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプターfor BladeSystem c-Class
- HPE SN1000E 16Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1000E 16Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1100E 16Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1100E 16Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1100E 16Gb クアッドポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE LPe1605 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプターfor BladeSystem c-Class
- HPE SN1200E 16Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1200E 16Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1600E 32Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1600E 32Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1610E 32Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1610E 32Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE 81Q 8Gb シングルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE 82Q 8Gb デュアルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE 84Q 8Gb クアッドポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1000Q 16Gb デュアルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1000Q 16Gb シングルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1100Q 16Gb デュアルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1100Q 16Gb シングルポート PCIe ファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1600Q 32Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1600Q 32Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1610Q 32Gb デュアルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE SN1610Q 32Gb シングルポートファイバーチャネルホストバスアダプター
- HPE CN1200E デュアルポート コンバージド ネットワークアダプター
- HPE CN1200E-T コンバージドネットワークアダプター
- HPE FlexFabric 20Gb 2ポート 650FLB アダプター
- HPE FlexFabric 20Gb 2ポート 650M アダプター
- HPE FlexFabric 10Gb 2ポート 556FLR-SFP+アダプター
- HPE FlexFabric 10Gb 2ポート 556FLR-T アダプター
- HPE QMH2672 16Gb ファイバーチャネルホストバスアダプターfor c-Class BladeSystem
- HPE QMH2572 8Gb ファイバーチャネルホストバスアダプターfor c-Class BladeSystem

ソフトウェア - システムマネジメント

先頭

Agentless Management Service (iLO 5) for Red Hat Enterprise Linux 7 Server

バージョン: 2.3.0 (オプション)

ファイル名: amsd-2.3.0-1451.49.rhel7.x86_64.compsig; amsd-2.3.0-1451.49.rhel7.x86_64.rpm

前提条件

- amsd は、HPE Gen10 サーバー上のみでサポートされています。
- amsd は、SNMP サポートを提供している iLO 5 サービスに情報を提供します。

要件:

- 最低限必要な iLO 5 ファームウェアバージョン = 1.1
- サポートされる最小 OS バージョン = Red Hat Enterprise Linux 7.3 Errata 3.10.0.514.6.1

修正

以下を修正しました:

- HPE Agentless Management Service (iLO 5)(amsd) for Linux の ahslog サービスは、システムの起動中に segfault することがあります。これが発生している間、ユーザーは systemctl から "Failed to start Active Health Service Logger" メッセージを見ることができます。詳しくは、カスタマーアドバイザリ [a00099165en_us](#) を参照してください。
- RHEL で ipv6 を無効にするようにカーネルパラメーターを設定すると、HPE Agentless Management Service (AMSD) のメモリ使用量がはるかに安定します。
- HPE Agentless Management Service (AMSD) で、テストパラメーターを使用してテストトリップを生成できないことを修正しました。
- iLO の再起動時にサービスを再開できるように、ahslog の安定性に対処しました。iLO の再起動後にサービスがハングアップしなくなります。
- ファイバーオプションでは、リバースモード(SMA)でデータを正しく配信します

改善点

このリリースの機能強化は、以下のとおりです。

- 次の新しいネットワークコントローラーのサポート:
 - P10118-B21 (HPE Ethernet 10/25Gb 2 ポート SFP28 QL41232HQCU OCP3 アダプター)
 - P22702-B21 (HPE Ethernet 10/25Gb 2 ポート SFP28 QL41222HLCU アダプター)
 - 874253-B21 (HPE Ethernet 100Gb 1 ポート 842QSFP28 アダプター)

Linux 64-bit 用 HPE MegaRAID Storage Administrator (HPE MRSA)

バージョン: 3.113.0.0 (オプション)

ファイル名: HPE_Linux_64_readme.txt; MRStorageAdministrator-003.113.000.000-00.x86_64.rpm; MRStorageAdministrator-003.113.000.000-00.x86_64_part1.compsig; MRStorageAdministrator-003.113.000.000-00.x86_64_part2.compsig; MRStorageAdministrator-003.113.000.000-00.x86_64_part3.compsig; MRStorageAdministrator-003.113.000.000-00.x86_64_part4.compsig

重要な注意!

なし

前提条件

なし

改善点

- 最初のリリース

Linux 64-bit 用 HPE MegaRAID Storage Administrator (HPE MRSA) StorCLI

バージョン: 1.25.12 (オプション)

ファイル名: LINUX_Readme.txt; storcli-1.25.12-1.noarch.compsig; storcli-1.25.12-1.noarch.rpm

改善点

- Apollo 4510 システムのサポートを追加しました

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) CLI for Linux 64 ビット

バージョン: 4.21.7.0 (オプション)

ファイル名: ssacli-4.21-7.0.x86_64.compsig; ssacli-4.21-7.0.x86_64.rpm; ssacli-4.21-7.0.x86_64.txt

重要な注意!

HPE SSA CLI は従来と同様に、さらに追加の機能、能力、およびサポートされたデバイスを持ち、ご使用のストレージを構成して管理することができます。既存の ACUCLI スクリプトは、互換性を維持するために適切なバイナリまたは実行可能ファイルを呼び出すような最小限の変更のみを加える必要があります。

修正

構成されている場合、ADU レポートは 4GiB サイズを超える Slotx ログをキャプチャーしません。

改善点

HPE Smart アレイ S100i SR Gen10 Plus SW RAID のサポートを追加

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) for Linux 64 ビット

バージョン: 4.21.7.0 (オプション)

ファイル名: ssa-4.21-7.0.x86_64.compsig; ssa-4.21-7.0.x86_64.rpm; ssa-4.21-7.0.x86_64.txt

重要な注意!

HPE SSA は既存の HPE アレイコンフィギュレーションユーティリティ、または ACU のデザインをアップデートして、それらがオンラインになるのに応じて、様々な Smart Storage イニシアチブのために新機能と機能性を提供します。HPE Smart Array Advanced Pack 1.0 および 2.0 の機能は、適切なファームウェア(の使用)により HPE SSA のベースライン機能の一部となりました。

HPE SSA は従来と同様に、さらに追加の機能、能力、およびサポートされたデバイスを持ち、ご使用のストレージを構成して管理することができます。既存の ACU スクリプトは、互換性を維持するために適切なバイナリまたは実行可能ファイルを呼び出すような最小限の変更のみを加える必要があります。

前提条件

HPE Smart Storage Administrator for Linux は、サーバーに HPE System Management Homepage ソフトウェアがインストールされている必要があります。サーバーに HPE System Management Homepage ソフトウェアがインストールされていない場合、HPE Smart Storage Administrator for Linux をインストールする前に、HPE.com からダウンロードしてインストールしてください。

重要なアップデート:HPE SSA (GUI) for Linux は、HPE System Management Homepage を必要とせず、実行することができます。HPE SSA は、Linux 用のローカルアプリケーションモードをサポートするようになりました。HPE System Management Homepage はサポートされていますが、HPE SSA GUI の実行には必要ありません。

起動するには、コマンドプロンプトで以下を入力してください。

```
ssa -local
```

このコマンドは新しい Firefox ブラウザーウィンドウで HPE SSA を開始します。ブラウザーウィンドウを閉じると、HPE SSA は自動的に終了します。これは、ループバックインタフェイスだけに有効であって、外部のネットワーク接続には当てはまりません。

修正

構成されている場合、ADU レポートは 4GiB サイズを超える Slotx ログをキャプチャーしません。

改善点

HPE Smart アレイ S100i SR Gen10 Plus SW RAID のサポートを追加

HPE Smart Storage Administrator Diagnostic Utility (HPE SSADU) CLI for Linux 64-bit

バージョン: 4.21.7.0 (オプション)

ファイル名: ssaduccli-4.21-7.0.x86_64.compsig; ssaduccli-4.21-7.0.x86_64.rpm; ssaduccli-4.21-7.0.x86_64.txt

重要な注意!

HPE Smart Storage Administrator の診断機能のこのスタンドアロンバージョンは、CLI からのみ利用できます。診断レポートの GUI バージョンは、HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)を使用してください。

修正

構成されている場合、ADU レポートは 4GiB サイズを超える Slotx ログをキャプチャーしません。

改善点

HPE Smart アレイ S100i SR Gen10 Plus SW RAID のサポートを追加
